

## 作家 田中康夫の スペシャルエッセイ

# 「慎み深く、 誇り高き エス女たち」

Text : YASUO TANAKA

思えば数々の「流行」を、「神戸」は生み出してきました。「阪神間モダンニズム文化」と呼ばれる、夙川から芦屋を経て御影に至る地域の生活様式と共に。

源平合戦の一ノ谷の戦い以降、久しく歴史の表舞台に登場しなかつた神戸が再び脚光を浴びるのは、明治の文明開化です。「女学生の頃、梅田から電車に乗って神戸の元町まで、スカートを買いたいめに掛けたものよ」。明治25年生まれの母方の祖母が、懐かしそうに語ってくれたのを思い出します。

歌舞伎役者が用いる顔料をドイツから輸入する問屋の娘として、大阪の道修町で生まれ育った彼女は、おしゃやれで、おしゃやな「元祖クリスタル族」。その後、西海岸のミルズ・カレッジで学び、

スタンフォード大学に留学していた男性と結婚した祖母にとつても「KOBÉ」は、憧れの街だったのです。

僕も魅せられて幾度となく訪れ、気づきます。その街並みや暮らし向きは、六甲山の風光と相まって、より魅力的に映し出されるのだと。明治初期には地肌がむき出しとなる程に荒廃していた山肌に、広葉樹と針葉樹をほど良く割合で植え続けた先達の「勤性」が、舶来品の玄関口・神戸に奥深さをもたらしました。森は優れて、暮らす人々を思索的にさせるのです。

「東京」の軸たる皇居の一廓には、国木田独歩の代表作『武蔵野』を彷彿とさせる雑木林が広がります。その東京は、昭和天皇の至言「雑草という草はない。どんな植物でもみな名前があつて、それぞれ自分の好きな場所で生を営んでいる」を隠喩するかの如く、多くの人々を引き寄せる街です。

情報が瞬時にネットで拡散するよりも前、神戸発の「モード」は東京を通じて全国へ伝播しました。メディアが集積する都市だからという理由に留まりません。渾然一体となって日頃から活発な分子運動を引き起こす、点としての共同体が、都内に数多く存在したから。僕はそう捉えています。

美智子皇后が生まれ育った池田山と五反田。あるいは元麻布と麻布十番。山手線の内側には、坂の上に御屋敷、坂の下に商店街の広がる地勢が点在します。

東西に繋がる道路や鉄道を浜っ側から山っ側へと越えるにつれて街並みが変化する阪神間の、南北に階層化された線としての共同体とは少なからず異なる、坂の上と下が一体となった、複数の点としての共同体なのです。

「先駆的」な「神戸」。「躍動感」の「東京」では、その両者の中間地点に位置する「名古屋」の魅力とは？ これまで余り指摘されてきませんでした。が、「卓越性」ではないでしょうか。神戸と東京の良い部分を巧みに取り入れ、自家薬籠中のものとする独自性。

その三都の読者と共に「絢爛度」では、他誌の追隨を許さないのが35年の歴史を刻む『25ans』。でもね、創刊直後から幾つもの連載を担当させて頂いた僕は思っています。慎み深い誇りとでも形容すべき気品が、そこはかとなく『25ans』の誌面には漂うのだと。

それは恐らく、女学生の祖母が元町へと出掛け始める直前の明治38年1905年、国木田独歩を初代編集長に迎えて創刊した『婦人画報』のDNAを受け継ぐ媒体だからかも知れません。

### Profile

たなかやすお ● 作家。前長野県知事。1956年4月12日東京都に生まれる。小学校2年から高校卒業までを長野県で過ごす。一橋大学法学部卒業。大学在学中に書いた『なんとなくクリスタル』（河出文庫）で、昭和55年度（1980年）の文芸賞を受賞。2000～'06年長野県知事、'07～'12年参議院議員、衆議院議員を務める。'14年11月に小説『33年の後のなんとなく、クリスタル』（河出書房新社）を出版。http://www.nippon-dream.com/